

第2章

調査編

子育て応援アンケート 千葉県柏市、山口県下関市でのアンケート調査の分析

—妊娠期からの子育ての実態と支援の課題—

武庫川女子大学教育研究所助手 橋詰啓子

22年度と23年度の調査では、子育て支援センターを利用している保護者と職員である支援者を対象に、支援内容の実態を調査してきました。現在センターを積極的に利用している保護者は、支援内容に対しての評価が高いことがわかりました。支援者においては、子育て支援の経験年数が長いほど自己評価が高くなっているという結果でした。日々の利用者との関わりを通して必要な支援を把握し、支援者としての力量を高めていることがわかりました。

子育て支援センターの利用者は、0歳～1歳の乳児とその保護者が大半を占めています。それは子育ての初期の段階から支援が求められているということであり、今後は妊娠中からの支援が必要であることも指摘されるようになりました。今回の調査では、妊娠・出産時の実態や子育てに関する保護者の意識を把握することで、今後の子育て支援のニーズと方向性を探っていきたいと思います。

アンケートは、千葉県柏市と山口県下関市の子育て支援センターを利用している保護者の方にご協力いただきました。この調査結果を今後の子育て支援の参考にしていただけるようお願いしております。

1. 調査目的

出産前の経験や妊娠中の意識、子育て環境の実態、出産・子育ての情報収集の手段、子育て支援の満足度、子育てについての意識などを聞き、保護者は何に困っているのか、どの時期にどのような支援が必要なのかを明らかにするために、アンケート調査を行いました。

2. 調査方法

(1) 調査時期：2012年9月～11月

(2) 調査対象：千葉県柏市子育て支援センター18園、山口県下関市子育て支援センター11園の利用者（保護者）。各施設の施設長に依頼し、各園で配布・回収。

(3) サンプル数：配布数660部、回収数498部、回収率75.5%（表1）

(4) 調査項目：妊娠中の気持ち、出産直後の状況、子育ての辛かった時期、子育てについての相談相手や情報収集の手段、支援の満足度、新生児訪問の感想について、子育て感情と子育て観、子育て環境に望むこと

表1 配布・回収数と回収率

	施設数	配布数	回収数	回収率（％）
柏市	18	326	250	76.7
下関市	11	334	248	74.3
全体	29	660	498	75.5

3. 調査結果と考察

(1) 基本属性

回答者である保護者の年齢は、30歳代が69.6%、20歳代が19.1%で、子どもの人数は1人（60.0%）もしくは2人（31.2%）でした。家族構成は、両親と子どもで3～4人の家庭が最も多く、祖父母と同居しているのは9.3%でした（表2・3・4）。保護者自身の兄弟数では、1人っ子は4.8%と少なく、2人兄弟は54.7%、3人兄弟は33.4%、4人兄弟以上は5.8%でした（表5）。

表2 保護者の年齢

	人数	%
20歳代	95	19.1
30歳代	346	69.6
40歳代	51	10.3
50歳代	1	0.2
無記入	4	0.8
計	497	100.0

表3 子どもの人数

	人数	%
1人	298	60.0
2人	155	31.2
3人	39	7.8
4人	2	0.4
5人	1	0.2
無記入	2	0.4
計	497	100.0

表4 祖父母同居の有無

	人数	%
同居していない	440	88.5
同居している	46	9.3
無記入	11	2.2
計	497	100.0

表5 保護者の兄弟数

	人数	%
1人っ子	24	4.8
2人兄弟	272	54.7
3人兄弟	166	33.4
4人兄弟以上	29	5.8
無記入	6	1.2
計	497	100.0

(2) 妊娠してから出産まで

第1子を出産した時の年齢の平均は、母親が30歳、父親が32歳で、自分の出産前に赤ちゃんの世話の経験がある人は36.6%で、世話をした人のなかで年の離れた弟妹の世話をしたという人は3人のみでした。世話をした赤ちゃんの多くは兄弟の子ども（甥や姪）で、3人に1人は全く経験のないまま親になっているという状況です（表6・7）。

表6 赤ちゃんの世話経験の有無

	人数	%
ある	182	36.6
ない	310	62.4
無記入	5	1.0
計	497	100.0

表7 世話をした子ども

	人数	%
弟・妹	3	1.7
親戚の子	100	56.6
仕事上	37	20.9
その他	37	20.9
計	177	100.0

妊娠がわかってから出産までの母親の気持ちを、肯定的な項目と否定的な項目により尋ねました。図1の結果にも示しているように、多くの母親が「赤ちゃんの誕生が楽しみ」「妊娠していることが嬉しい」など赤ちゃんへの愛情や妊娠を肯定的な気持ちで過ごしていたことがわかります。特に「周囲の人が喜んでくれて嬉しかった」は「あてはまる」だけで88.1%であることから、妊娠を喜んでくれたり労ってくれるなどの周囲の環境が、妊婦の肯定的な気持ちに影響していたのだと思われます。「子育てが楽しみだった」という項目については、他の項目より「あてはまる」人が少なかったことから、妊娠中から子育てに関しては、楽しみより不安な要素が多かったのではないかと考えられます。

図2は妊娠から出産までの否定的な気持ちの結果で、お産のことや妊娠の経過について不安だった人は多く、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合せると「お産のことが不安だった」80.0%、「妊娠の経過が順調であるか不安だった」80.2%でした。また「母親になることが不安だった」は52.5%で、親としての役割について約半数が不安を感じています。妊娠中に「孤独でさみしい」「望まない妊娠」など否定的に感じる人は、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせても5～6%と少ない結果になっています。妊娠・出産に関して否定的な気持ちを抱く妊婦は少数ですが、このような人へこそ早期からの支援が必要になってくると思います。

図1 妊娠から出産までの気持ち〈A〉

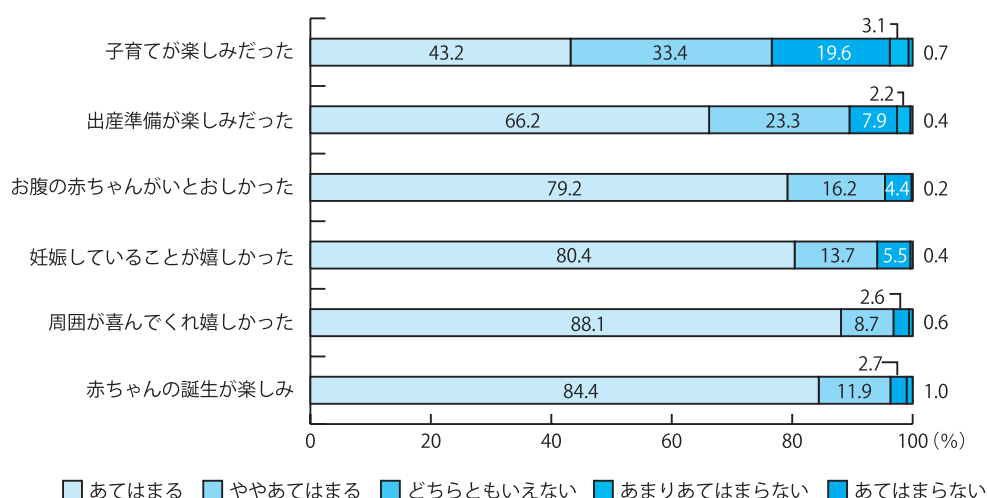
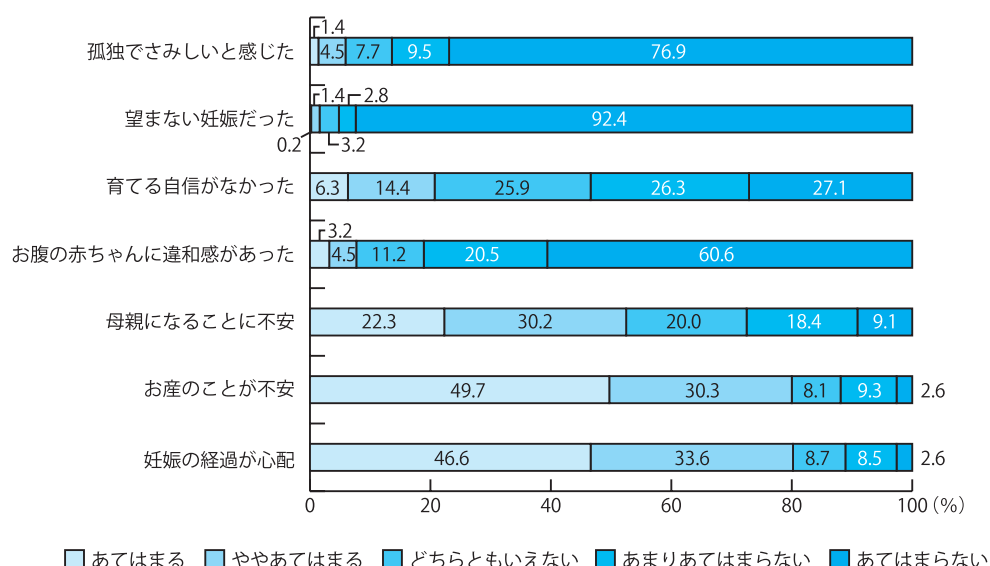


図2 妊娠から出産までの気持ち〈B〉



妊娠中に子育て支援センターの存在を知っていたという人は23.3%で、知らなかったという人は、74.0%でした。知っていたという人のなかで、友人や知人、近所の人から聞いたというのが一番多く、次に市役所や市の広報誌からとなっています（表8）。パンフレットや冊子は、母子手帳と一緒に、もしくは母親学級で配られたもので、支援センターの広報はいろいろと工夫されています。しかし「知らなかった」という人が7割以上ということは、妊娠中には子育て支援センターの存在が認識されにくい状況だということがわかります。

表8 どこでセンターを知ったか

友人・知人・近所の人	27人
市役所・広報部	22人
ネットのHP	11人
パンフレット・冊子	9人
保育園	5人
保健センター	5人
その他	12人

(3) 出産後と子育て

出産後退院して過ごした場所は、「母親の実家」が66.2%、「自宅」は27.4%となっています。出産後家事を始めたのはいつからかという問いでは、「3週間以上経ってから」が63.6%で最も多く、次に「1～2週間」20.7%となっています（表9・10）。

表9 出産後過ごしたところ

	人数	%
自宅	136	27.4
母親の実家	329	66.2
夫の実家	17	3.4
その他	1	0.2
無記入	14	2.8
計	497	100.0

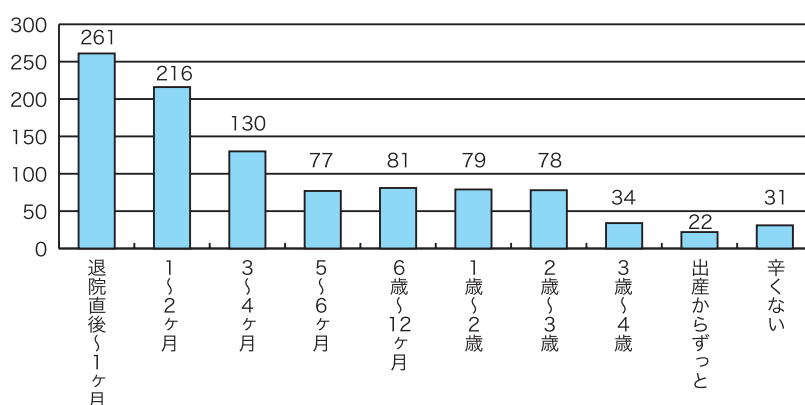
表10 家事を始めた時期

	人数	%
退院してすぐ	68	13.7
退院後1～2週間	103	20.7
3週間以上経って	316	63.6
無記入	10	2.0
計	497	100.0

ひと昔前は産後の母親の体をいたわるため、“産後21日は水仕事をしないように”と言われていました。そのことを聞いたことがある人は85.7%、聞いたことがない人は12.3%という結果で、ほとんどの人が自分の親や配偶者の親から聞いていました。そのため産後の体を労ってくれる人がいたという人は95.2%で、ほぼ全員が産後に、夫や親に労ってもらったという結果でした。

第1子の子育てで辛かった時期を尋ねたところ「退院直後～1ヶ月」と答えた人が261名で最も多く、全体の52.5%が辛さを感じていたことになります。次に1～2ヶ月、3～4ヶ月が多く、その後子どもが成長していくとともに辛さが減っていくことが示されています（図3）。「出産後から現在までずっと」辛いと感じていた人は22名（4.4%）で、「辛いと思ったことはない」人は31名（6.2%）でした。第1子の子育てで多くの母親が辛いと感じるのは、出産後すぐから4ヵ月頃であり、出産後間もない時期の母親へのサポートが重要になるということがわかります。

図3 辛かった時期（複数回答）



子育てが辛かった時期に感じたことでは、「自分のために時間を確保するのが難しい」と感じている人が一番多く、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合すると65.8%でした。次に「子どもの育ちに不安（順調に育っているかどうか）」が49.9%、「何をしても泣き止まなくて困る（夜泣きがひどい）」が43.9%でした（図4）。子育ての辛さを感じる項目について、出産前に赤ちゃんの世話をした経験が有るか無いかで、辛さの度合いを比べてみると、どの項目についても世話をした経験有りの方が、経験無しより辛さの度合いが低いという結果でした（図5）。つまり、結婚や出産前に赤ちゃんの世話をしたことがあるという経験は、のちの自分の子育てに役に立ち、子育ての辛さを感じる度合いが低くなるということを示しています。

赤ちゃんの世話をした経験は、子育ての具体的な方法を知るというだけでなく、赤ちゃんは泣くもの、大人の時間を奪うもの、扱いにくいときもあるなどの子どもの特徴を知ることでもあります。子どもの本来の姿を知れば、辛さの感じ方も変わってくるのだと思います。

図4 子育てが辛かった時期に感じたこと

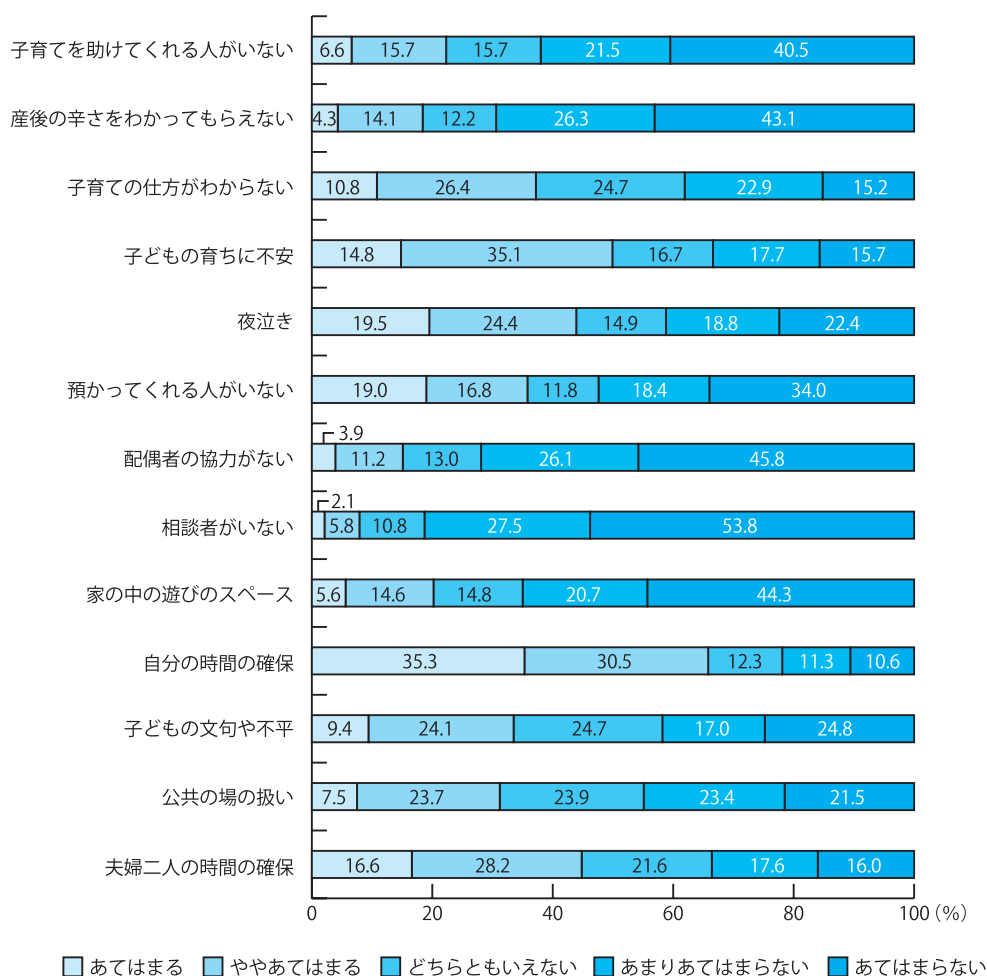
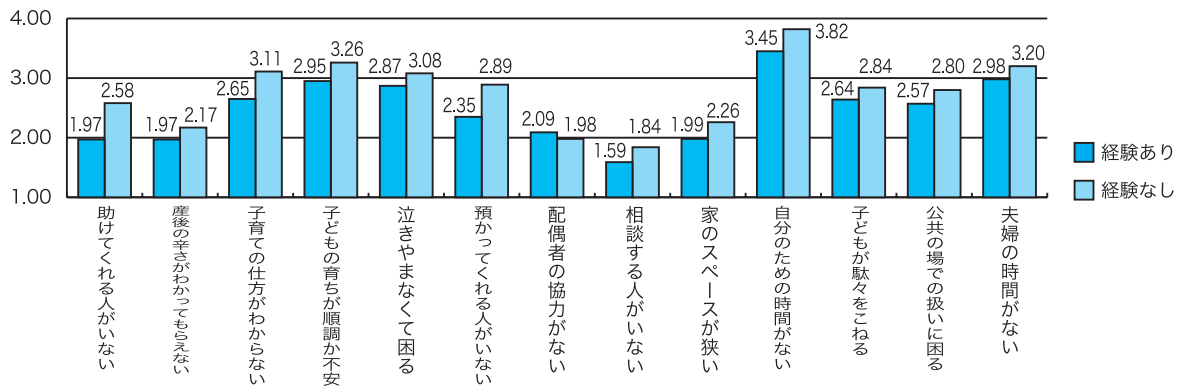
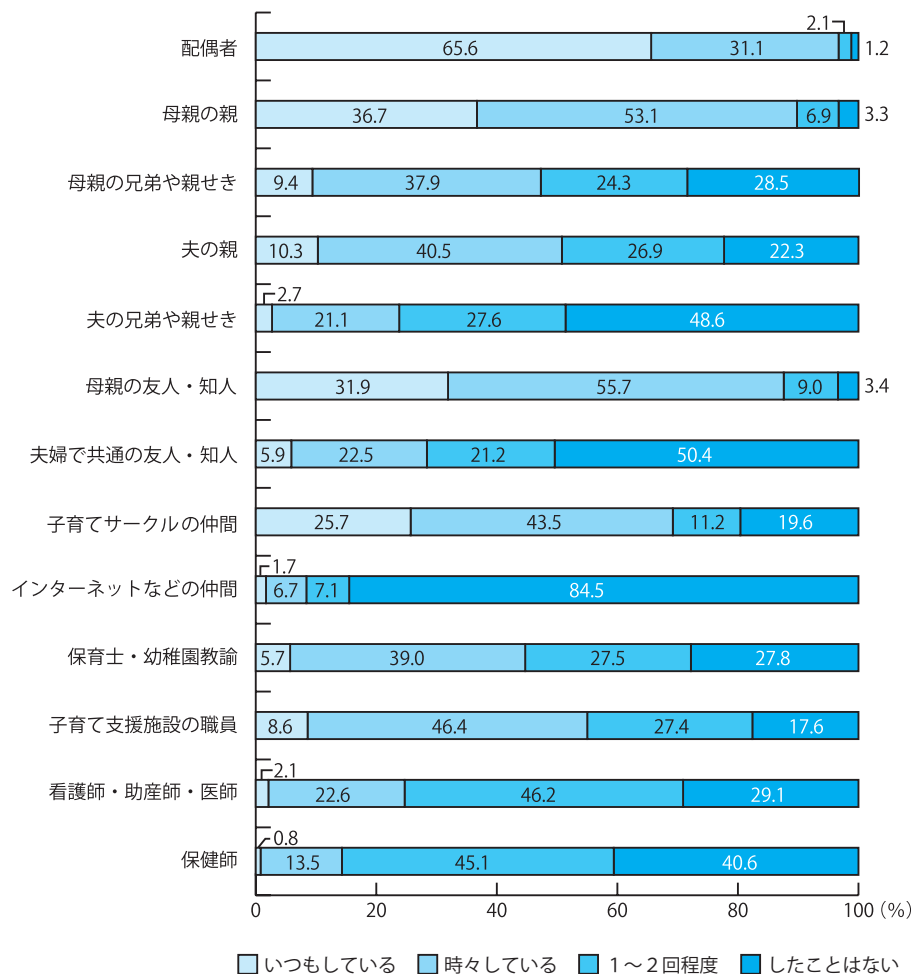


図5 辛かった時に感じたこと—赤ちゃんの世話の経験の有無による違い



子育てについて相談したり、話し合ったりしたことのある人は、まず配偶者（夫）が一番多く、「いつもしている」「時々している」を合すると96.7%でした。次に母親の親が89.8%、母親の友人・知人が87.6%で、相談相手は身近な家族や子育て経験のある友人などが多いという結果でした。また子育てサークルの仲間が69.2%、子育て支援施設の職員が55.0%で、子育て支援での相談機能を利用している人も半数以上いました（図6）。

図6 子育て相談をしたり話し合ったりする人



妊娠・出産・子育てに関する情報を得るために利用したことがあるものでは、ほとんどの人が「両親や親せき」「出産経験のある友人」「子育て支援センター・ひろば」などマンパワーを利用していることがわかりました。また雑誌、書籍、テレビ・ラジオ、インターネットなどは手軽に調べて情報を得ることができるため、保健所や病院、幼稚園や保育所など専門機関よりも、多く利用されていることがわかります（図7）。

これらの情報がどの程度役に立ったのかについては、図8に示しています。「とても役に立った」=5、「時々役に立った」=4、「たまに役に立った」=3、「あまり役に立たなかった」=2、「役に立たなかった」=1を得点として、それぞれの項目の得点平均をグラフに表したものです。役に立った情報として最も高いのは、「出産経験のある人」で、次に「子育て支援センター・ひろば」や「両親や親せき」などで、直接人と話して得た情報が、より役立っているということがわかります。反対に雑誌、書籍、テレビなどは利用されることが多いわりに、役に立ったという評価が低いという結果でした。

図7 子育て情報を得るために利用したことがあるもの

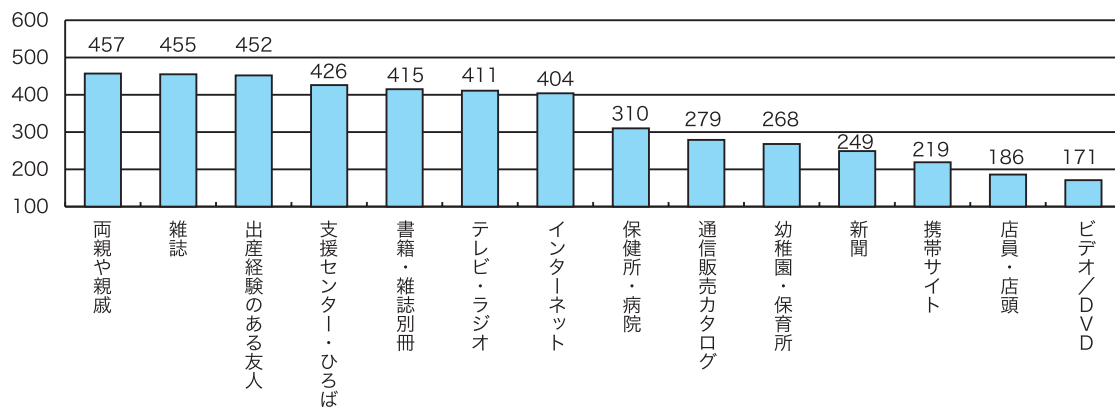
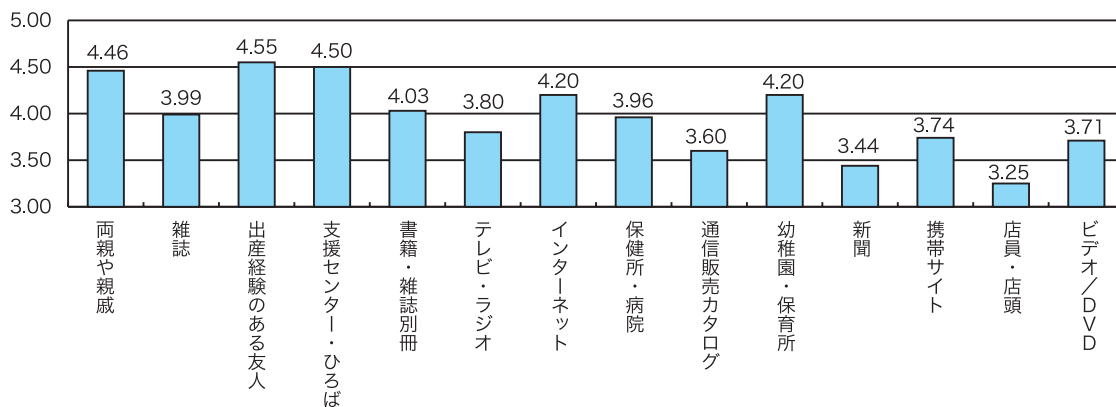


図8 子育てに役立つ情報があつた



5 = とても役に立った 4 = 時々役に立った 3 = たまに役に立った
2 = あまり役に立たなかった 1 = 役に立たなかった

(4) 子育て支援の満足度

子育て支援の内容について満足度を尋ねた結果、子育て支援事業である「子育て支援センターやひろばなどの施設」が、「とても満足」と「やや満足」を合すると68.1%で、最も満足が高くなっていました。次に「親同士が交流できる場」が59.7%、「行政が行う子育て支援の制度」が57.2%でした。このアンケートの回答者が子育て支援センターの利用者であることから、地域子育て支援拠点事業による支援サービスが、利用者から一定の満足を得ていることを示しています（図9）。

満足度が低く、不満についての回答が多かった項目は、「子育てと仕事が両立できる施設」が最も多く、「とても不満」と「やや不満」を合せて40.1%、次に多いのは「子どもにとっての安全な遊び場」が32.4%でした。図10は、「とても満足」＝5、「やや満足」＝4、「どちらともいえない」＝3、「やや不満」＝2、「とても不満」＝1を得点として、平均得点を表したグラフです。現在仕事を持っていない母親も、仕事をしたいが保育所に入れないといった待機児童の問題を指摘している内容が、自由記述の中に多く述べられていました。これまでも子育てと仕事の両立支援は積極的に実施されてきましたが、まだ十分でないことがわかります。保護者にとっての子育て支援としては、施設を充実して交流の場や相談できる場の提供などには、ある程度の満足感を感じていますが、子どもを安心して預ける場や遊べる場などの支援が不十分だということがわかりました。今までの支援は母親へ視点を置いて、子育ての負担を軽減するための様々な支援が展開されてきましたが、これからは母親の就労支援や子どもへの配慮を重視した支援が求められていると考えられます。

図9 子育て支援の満足度〈A〉

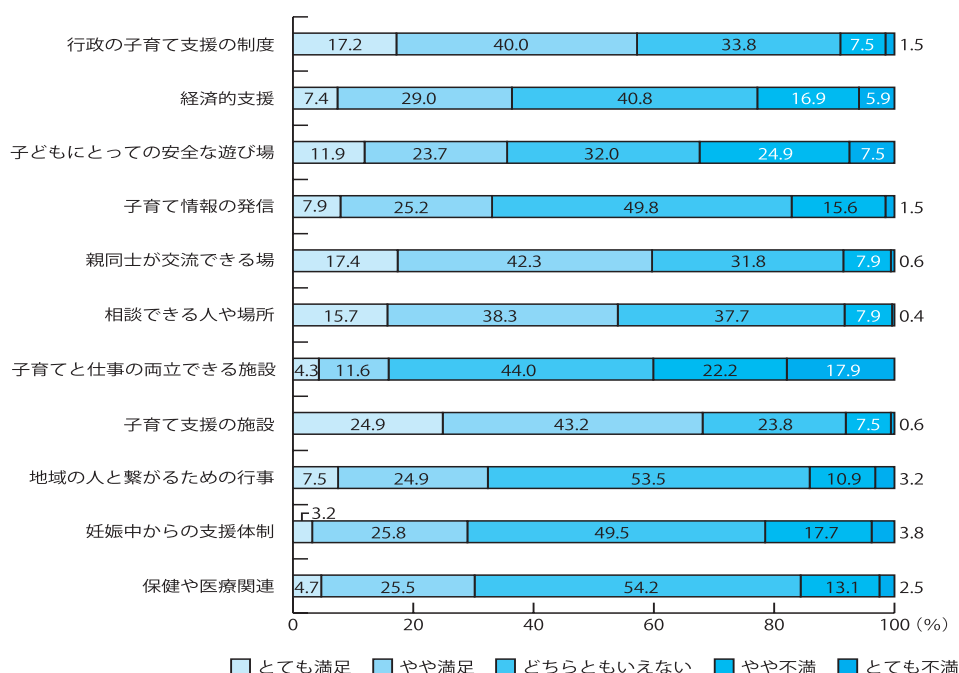
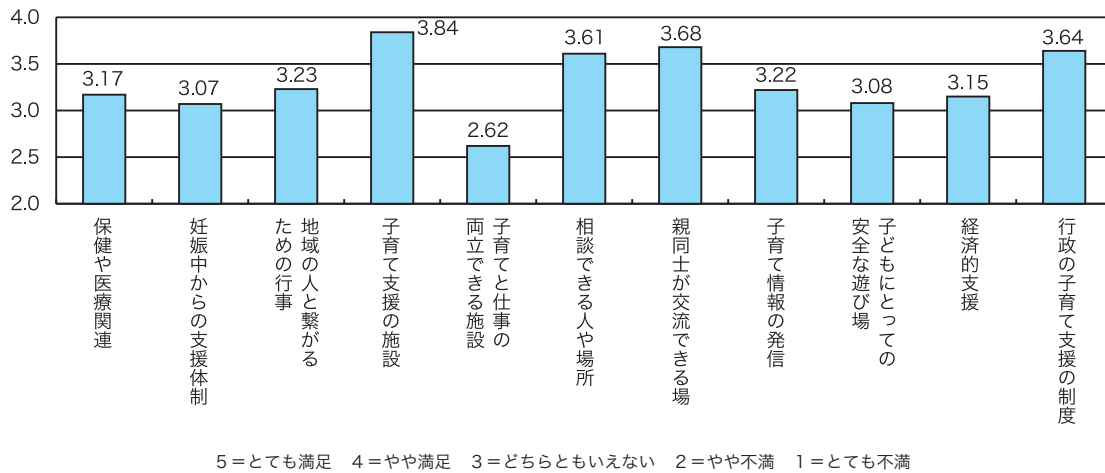


図10 子育て支援の満足度〈B〉



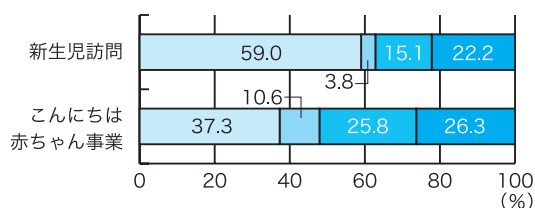
(5) 訪問支援の感想

厚生労働省による「乳児家庭全戸訪問事業」として、新生児訪問が各地で実施されています。生後4ヶ月を迎えるまでの、全ての乳児のいる家庭を対象として子育ての専門家などが訪問を行う事業です。柏市では2事業に分けて「新生児訪問」を保健師、助産師が訪問し、「こんにちは赤ちゃん事業」は、地域の人による柏市民健康づくり推進員が訪問を行っています。下関市は「こんにちは赤ちゃん訪問」の1事業として保健師、助産師、看護師が訪問しています。これらの訪問支援についての感想を聞きました。結果は図11と図12の通りです。

柏市では、保健師・助産師が訪問する「新生児訪問」については、回答者の59% (141人) が有意義だったと答え、3.8% (9人) が有意義でないと答えています。地域の推進委員が訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」については、37.3% (88人) が有意義だったとし、10.6% (25人) が有意義でないと答えています (図11)。下関市の保健師、助産師、看護師が訪問する「こんにちは赤ちゃん訪問」では、59.0% (140人) が有意義だった、11.0% (26人) が有意義でないと答え、柏市の「新生児訪問」とほぼ同じ結果でした (図12)。

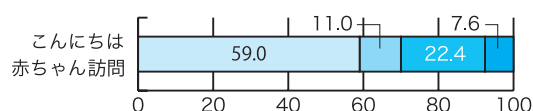
柏市の「新生児訪問」や下関市の「こんにちは赤ちゃん訪問」について、「有意義だった」と答えた理由としては、専門家に相談することで「赤ちゃんや育児の知らないことを教えてもらった」「赤ちゃんを見てもらって不安が解消できた」などが多く述べられていました。柏市の地域の委員が訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」については、「地域の情報をいろいろ教えてもらった」などという良かった理由も述べられていますが、有意義でない理由として「素人の方に相談しても参考にならない」「近所の方ではプライバシーの問題がある」などがあげられていました。乳児家庭の訪問支援については、専門家以外の人材で支援することの難しさが示されていました。

図11 柏市「乳児家庭全戸訪問事業」



	こんにちは赤ちゃん事業	新生児訪問
有意義だった	88	141
有意義でない	25	9
わからない	61	36
訪問なし	62	53
計	236	239

図12 下関市「乳児家庭全戸訪問事業」

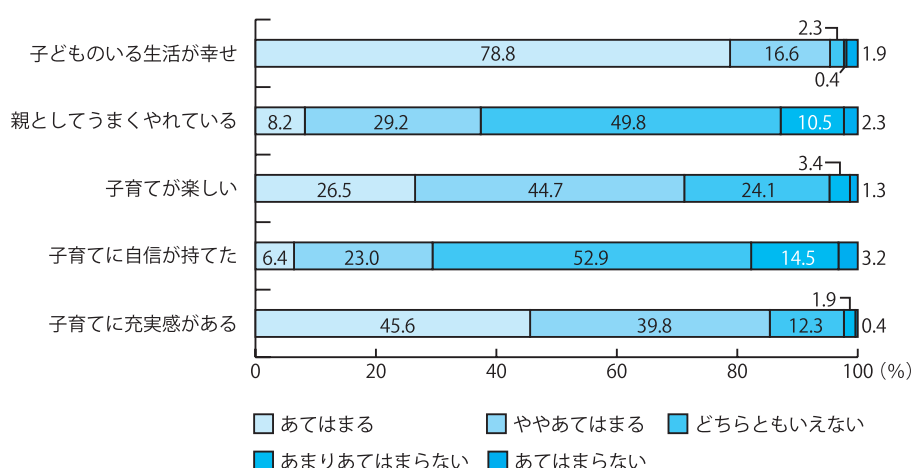


	こんにちは赤ちゃん訪問
有意義だった	140
有意義でない	26
わからない	53
訪問なし	18
計	237

(6) 子育てについて感じること

現在の子育てについて感じることを肯定的な項目と否定的な項目の内容で尋ねました。まず、肯定的な内容で「あてはまる」と「ややあてはまる」を合せて多かった項目は、「子どもがいる生活が幸せだと感じる」95.4%、「子どもを育てることに充実感を味わっている」85.4%、「子育てが心から楽しいと思う」71.2%でした。「親としてそれなりにうまくやれていると思う」や「子育てに自信が持てるようになった」については、約半数が「どちらともいえない」と答えています（図13）。

図13 子育てについて感じること〈A〉



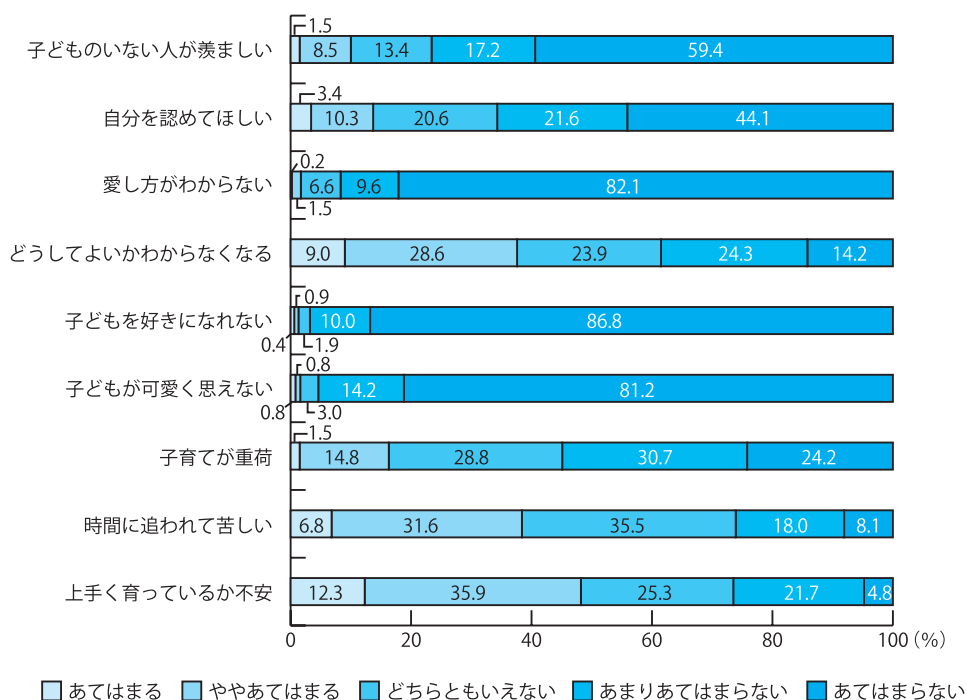
次に、否定的な項目の内容に、「あてはまる」と「ややあてはまる」を選ぶ人は少ないですが、ある程度の不安感や負担感を感じており、「子どもが上手く育っているか不安になる」48.2%、「子どものためにいつでも時間に追われていて苦しい」38.4%、「子どものことでどうしたらよいかわからなくなることがある」37.6%という結果でした（図14）。これは子育てで辛かった

時期に感じたことの内容と重なり、特に「子育ての仕方がわからない」「自分の時間がない」などは第1子を育てるときに特に感じる辛さでもあります。そのような負担感を感じながらも「子育てが重荷になる」ことは少なく、9割以上の人々が「子どもがいない人が羨ましい」とは感じていないようです。項目間の相関を調べると、子どものいない人を羨ましく感じる人がいる人は、子育てを重荷に感じ、自分を認めてほしいと思っていることがわかりました。

「子どもを可愛く思えない」「子どもを好きになれない」「愛し方がわからない」など、子どもに対する否定的な感情を持っている人は極めて少ないことがわかりました。しかし、1割程度（「あてはまる」と「ややあてはまる」）の人が子育てを否定的にとらえています。また、これに「どちらともいえない」を合せると、3～8%いることも示されています。これらの項目間の相関を調べてみると、「親に愛されたことがないから愛し方がわからない」と思っている人ほど、「子どもが可愛く思えない」「子どもが好きになれない」と感じていることがわかりました。

「子どもより自分を認めてほしい」という項目では、「あてはまる」と「ややあてはまる」、そして「どちらでもない」を合せると34.3%で、3割の人が母親として頑張っている自分を認めてほしいと感じていることがわかりました。

図14 子育てについて感じること〈B〉



(7) 子育て観

子育て観として、「子育ては完璧にできていなくてもいい」と「子どもは親が責任を持って育てるべきである」の2項目について尋ねました。図15に示すように、「子育ては完璧でなくてもよい」と考えている人は、「あてはまる」が46%。「ややあてはまる」が38%で、ほとんどの人が子育ては完璧にできなくてもよいと考えています。「子どもは親が責任を持って育てるべきである」については、「あてはまる」が58%、「ややあてはまる」が32%で、9割の人が親の責任で子どもを育てるべきと考えています。親として子どもへの責任感は強く持つてはいますが、子育ては完璧にできなくてもよいと考えていることがわかりました（図16）。

図15 子育ては完璧でなくてもよい

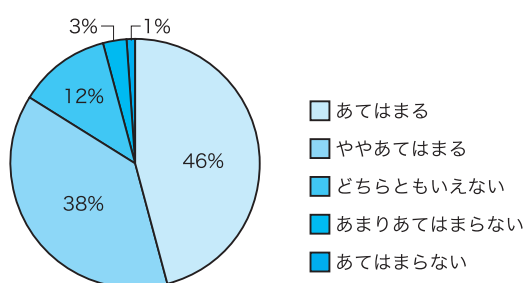
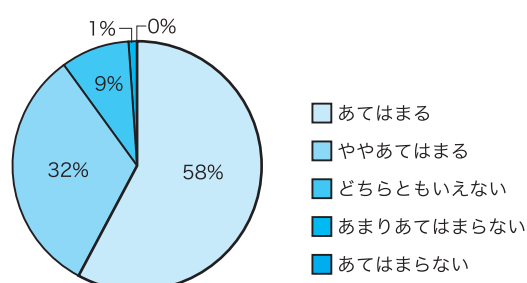


図16 親が責任を持って育てるべき



まとめ

アンケート調査の結果は、子育て支援センターを利用している保護者で、かつ在宅で子育てをしている人たちを対象にしたものです。今回は妊娠期・出産期・育児期を合せて、子育ての状況や母親の気持ち等を尋ねました。周囲に見守られながら、肯定的な気持ちで妊娠期を過ごしていた人がほとんどでしたが、妊娠の経過やお産のことには不安があったようです。第1子で初めて妊娠・出産の経験をする人にとっては当然の心配事ですが、身近な人から経験談を聞いたり、雑誌やインターネットなどを活用している人が多くいることがわかりました。情報化社会である現代では、子育てについても様々な人やツールを活用して情報を得ることができですが、友人・知人・親などの経験者から聞いたことや子育て支援センターやひろばでの援助者から聞いた話が、より役に立っていたということがわかりました。

妊娠期に「孤独でさみしい」や「育てる自信がない」など否定的な気持ちを持っていた人はわずかでしたが、そのような人ほど妊娠期からの支援ができる体制が必要になります。子育てで辛かった時期として一番多かったのは出産後すぐから1ヶ月で、この時期は子どもの世話が昼夜関係なく24時間続くという状況であるからだと考えられます。また、赤ちゃんの世話をしたことがない人にとっては、体力の疲れだけでなく精神的な不安も大きいと思われます。自分

の出産前に赤ちゃんの世話をした経験がある人は、ない人よりも辛さの感じ方が少ないということもわかりました。辛かったことで多かったのは、「自分の時間がない」や「子どもの育ちが順調か不安」という項目でした。母親が疲れていたり不安になっている時に、少しの時間でも母親に代わって子どもを見てくれたり、助けてくれる人が必要になります。

子育て支援については、子育て支援センターやひろばなど支援施設が増えてきたことで、親同士の交流や気軽に相談できる場が多く提供されています。様々な支援から自分に合う支援を選択し上手く利用している人にとっては、満足感が高いと思われます。しかし、情報が届かない人、上手く活用できない人への配慮が必要になってきます。出産前に子育て支援センターを知っていた人は23.3%でした。妊娠中に市役所からの配布物やホームページなどで知らされているとは思いますが、実際にはあまり認識されていないことがわかりました。妊娠中や出産後の子育てに否定的な感情を持っている人や子育て中ずっと辛さを感じている人、子どもとの関係がうまく築けない人はわずかでしたが、これらの要支援の方を早期に発見し、支援の手を差し伸べていく方策が必要だと考えます。地域の子育て支援拠点としての役割は、地域の専門機関とネットワークを強化し、保育士、助産師、保健師、看護師、医師などの専門家の連携がより重要になってきます。

最後になりましたが、千葉県柏市と山口県下関市の子育て支援センターの利用者と職員の皆様から、調査のご協力をいただきましたことを感謝いたします。

子育て応援アンケート

保護者の方へ

平成24年 9月 日本保育協会
地域における子育て支援に関する調査研究委員会
調査担当：武庫川女子大学 橋詰啓子

日本保育協会では、子育て支援を充実させ、保育者がより質の高い支援を行うために、調査研究を行っています。
この調査は、子育て支援事業を利用されている保護者の皆さんを対象に、子育ての状況やニーズをお聞きして、今後の子育て支援に役立てることを目的としています。助け合いの子育てをしていくために何が必要か、皆様が今までの育児を振り返って「つらかったこと」「助けてほしかったこと」などのご意見をいただき、今後の子育て支援に役立てていきたいと思ひます。
調査の結果については、個人が特定されることのないように統計的に処理がなされます。また目的以外に使用することも一切ありません。ご協力をよろしくお願いいたします。(なお、回答は平成24年9月現在でお答えください)

最初にご家庭のことについておうかがいします

①現在のあなたとお子様のことを教えてください。

- ①記入者は子どもの 1. 父 2. 母 3. 祖父 4. 祖母 5. その他 ()
②記入者(保護者)は何人兄弟で育ちましたか 1. 一人っ子 2. 2人兄弟 3. 3人兄弟 4. 4人兄弟以上
③記入者(保護者)は 1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代
④お子様の人数は ()人
⑤お子様の年齢は ()歳 ()ヶ月
()歳 ()ヶ月
()歳 ()ヶ月
()歳 ()ヶ月

②あなたとお子様以外で同居されている家族に、○をつけてください。

1. 配偶者 2. 妻の父親 3. 妻の母親 4. 夫の父親 5. 夫の母親
6. 父母以外の親族 7. その他 ()

次に妊娠してから出産までについておうかがいします

③第一子を出産した時の年齢を教えてください。

母親 歳 父親 歳

④出産前に、赤ちゃんと身近に接したり世話をすることがありましたか

1. はい ⇒ どんときですか ()
2. いいえ

⑤お母さまの妊娠がわかってから出産まで、どんな気持ちで過ごしましたか

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 赤ちゃんの誕生がとても楽しみだった	5	4	3	2	1
2. 周囲の人が喜んでくれて嬉しかった	5	4	3	2	1
3. 妊娠していることが嬉しかった	5	4	3	2	1
4. おなかの赤ちゃんをいとおしく感じた	5	4	3	2	1
5. 出産の準備をしている生活が楽しかった	5	4	3	2	1
6. 子育てのことを考えると楽しくなった	5	4	3	2	1
7. 妊娠の経過が順調であるかどうか不安だった	5	4	3	2	1
8. お産のことが不安だった	5	4	3	2	1
9. 母親になることに不安があった	5	4	3	2	1
10. おなかの赤ちゃんに対して違和感があった	5	4	3	2	1
11. 赤ちゃんを育てられるか自信がなかった	5	4	3	2	1
12. 望まない妊娠だった	5	4	3	2	1
13. 孤独でさびしいと感じた	5	4	3	2	1

⑥妊娠中に、子育て支援センターの存在を知っていましたか。

1. はい ⇒ どこで知りましたか ()
2. いいえ

出産後と子育てについておうかがいします

※⑦～⑫の問いは、お子様のお母さまにお尋ねします。

⑦出産後、どこで過ごされましたか。

1. 自宅
2. あなたの実家
3. 配偶者の実家
4. その他 ()

⑧家事（食事のしたく・洗濯・掃除など）を始めたのはいつからですか。

1. 退院してすぐから
2. 退院後1～2週間してから
3. 3週間以上経ってから

⑨ひと昔前は産後の母親をいたわり、“産後21日は水仕事をしないように”と言われていました。

そのことを聞いたことがありますか。

1. ある ⇒ 誰から聞きましたか ()
2. いなかった

⑩産後の体をいたわってくれる人はいましたか。

1. いた ⇒ 誰がいたわってくれましたか ()
2. いなかった

⑪第一子の子育てで辛かった時期はいつ頃ですか。（複数回答可）

1. 退院直後～1ヶ月
2. 1～2ヶ月
3. 3～4ヶ月
4. 5～6ヶ月
5. 6～12か月
6. 1歳～2歳
7. 2歳～3歳
8. 3歳～4歳
9. 出産後から現在までずっと
10. 辛いと思ったことはない

⑫子育てで辛かった時期に感じた内容について、どの程度あてはまりますか。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 子育てを助けてくれる人がいない	5	4	3	2	1
2. 産後の体や心の辛さをわかってくれる人がいなかった	5	4	3	2	1
3. 子育ての仕方がわからなくて困る	5	4	3	2	1
4. 子どもが順調に育っているかどうか不安である	5	4	3	2	1
5. 何をしても泣き止まなくて困ることがある（夜泣きがひどい）	5	4	3	2	1
6. 子どもを預かってくれる人がいない	5	4	3	2	1
7. 配偶者の協力がいない	5	4	3	2	1
8. 子育てのことについて相談する人がいない	5	4	3	2	1
9. 家の中で子どもを遊ばせるスペースが少ない	5	4	3	2	1
10. 自分のために時間を確保するのが難しい	5	4	3	2	1
11. 子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする	5	4	3	2	1
12. 公共の場所で、子どもの扱いに困る	5	4	3	2	1
13. 夫婦二人のための時間を確保するのが難しい	5	4	3	2	1
14. その他 ()	5	4	3	2	1

- ⑬子育てについて相談したり、話し合ったりしたことのある人はいますか。
それぞれの人で、どの程度相談していますか。

	いつもして いる	時々してい る	1～2回程 度	したことは ない
1. 配偶者	4	3	2	1
2. あなたの親	4	3	2	1
3. あなたの兄弟や親せき	4	3	2	1
4. 配偶者の親	4	3	2	1
5. 配偶者の兄弟や親せき	4	3	2	1
6. あなたの友人・知人	4	3	2	1
7. 配偶者と共通の友人・知人	4	3	2	1
8. 子育てサークルの仲間	4	3	2	1
9. インターネットのメーリングリストなどの仲間	4	3	2	1
10. 保育士・幼稚園教諭	4	3	2	1
11. 子育て支援施設の職員	4	3	2	1
12. 子どもの産婦人科・小児科の看護師・助産師・医師	4	3	2	1
13. 保健師	4	3	2	1
14. その他（ ）	4	3	2	1

- ⑭妊娠・出産・子育てに関する情報を得るために、利用したことはありますか。
それはどの程度役に立ちましたか。

利用したことがとても役に立った時々役に立ったたまに役に立ったあまり役に立たなかった役に立たなかった

	利用したことが	とても役に 立った	時々役に 立った	たまに役に 立った	あまり役に 立たなかつ た	役に立たな かった	
1. テレビ・ラジオ	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
2. 新聞	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
3. 雑誌	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
4. 書籍・雑誌別冊	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
5. ビデオ・DVD	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
6. メーカーカタログ・通販カタログ	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
7. インターネット	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
8. 携帯サイト・配信サイト	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
9. 店員・店頭	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
10. 出産経験のある友人	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
11. 両親や親せき	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
12. 子育て支援センター・ひろば等	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
13. 幼稚園・保育所	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
14. 保健所・病院	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1
15. その他 () 1	ない	ある ⇒	5	4	3	2	1

- ⑮「とても役に立つ」と思った情報は、誰からのどのような内容でしたか。具体的に教えてください。

()

⑯子育て支援の内容について、どの程度満足していますか。

	とても満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	とても不満
1. 行政が行う子育て支援の制度	5	4	3	2	1
2. 子育てのための経済的援助	5	4	3	2	1
3. 子どもにとっての安全な遊び場	5	4	3	2	1
4. 子育て情報の発信	5	4	3	2	1
5. 親同士が交流できる場	5	4	3	2	1
6. 子育てについて気軽に相談できる場所や人	5	4	3	2	1
7. 子育てと仕事が両立できる施設	5	4	3	2	1
8. 子育て支援センターやひろばなどの施設	5	4	3	2	1
9. 地域の人とつながるための行事	5	4	3	2	1
10. 妊娠中からの支援体制	5	4	3	2	1
11. 保健や医療関連	5	4	3	2	1
12. その他（ ）	5	4	3	2	1

⑰「新生児訪問」（保健師や助産師の訪問についてうかがいます。

- 新生児訪問は有意義だった・・・
1. はい
 2. いいえその理由
 3. わからない
 4. 訪問を受けていない

⑱ 柏市民健康づくり推進員が訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」の訪問についてうかがいます。

- 推進員の訪問は有意義だった・・・
1. はい
 2. いいえその理由
 3. わからない
 4. 訪問を受けていない

⑲現在の子育てについて、どのように感じていますか。

	あてはまる	ややあて はまる	どちらとも いえない	あまりあて はまらない	あてはまら ない
1. 子どもを育てることに充実感を味わっている	5	4	3	2	1
2. 子育てのためにいつでも時間に追われていて苦しい	5	4	3	2	1
3. 子育てに自信が持てるようになった	5	4	3	2	1
4. 子どもがうまく育っているか不安になる	5	4	3	2	1
5. 子育てが心から楽しいと思う	5	4	3	2	1
6. 子育てが重荷に感じられる	5	4	3	2	1
7. 子どもを可愛く思えない	5	4	3	2	1
8. 子どもを好きになれない	5	4	3	2	1
9. 子どものことでどうしたらよいかわからなくなることがある	5	4	3	2	1
10. 親としてそれなりにうまくやれていると思う	5	4	3	2	1
11. 子どもがいる生活が幸せだと感じる	5	4	3	2	1
12. 親に愛されたことがないから愛し方がわからない	5	4	3	2	1
13. 子どもより、自分を認めてほしいと思うことがある	5	4	3	2	1
14. 子どものいない人をうらやましいと感じることがある	5	4	3	2	1
15. 子育ては、完璧にできていなくてもいいと思う	5	4	3	2	1
16. 子どもは、親が責任をもって育てるべきである	5	4	3	2	1

⑳子育て環境について行政に望むことや、困っていることがありますか？

・ある ―――> ご意見などありましたら、ご自由にご記入ください

・ない []

※調査票の項目の一部は、「第1回妊娠出産子育て基本調査報告書」より、ベネッセ次世代育成研究所の使用許可書を得て使用しています。